



さらしなの里



友の会だより

第30号

2014・春



コンサート出演のみなさん



コーラスさらしな



さらしな棚田バンド



更級かたりべの会

今、ふるさとを唄おう！

千曲市合併10周年記念事業の一つとして、羽尾の明徳寺さんを会場にお借りして3月1日、「今、ふるさとを唄おう！」と題したコンサートを開催しました。

ちよつと前まで、自分のふるさとのことを唄うなんて、「こっぴばずかしい」と思っていました。あまりにも身近すぎて歌になんかならないんじゃないか、歌にしちゃうと、なんか嘘っぽくなってしまふのではないかなんて考えていました。だけど、さらしな棚田バンドの仲間で唄い始め、自分たちで曲を作り始めて見ると、ふるさとを唄うことが、とても大切だということに気がつきました。自分たちの言葉で、自分たちの声で、「ふるさとが好きだ！」って唄わなくちゃダメだ、と思うようになりました。

コンサートは、オリジナル曲作りの原点となった「さらしなの里ここにあり」で始め、かたりべの会のみなさんに、宗良親王と成俊僧都のお話を「おらほのことば」で読んでいただきました。続いて、「よしのぼり」「風の歌」「冠着十三仏」「冠着の光」と、日ごろ見過ごしてしまっている魅力を唄いました。姨捨駅を舞台にした「スイッチバックの恋」、棚田を謳った「棚田の作男」「朝日が昇る丘の上」と続け、最後に、プロの音楽家、吉川忠英さんとの交流の中から生まれた「棚田姫」を唄わせていただきました。最後は、コーラスさらしなのみなさんと会場が一緒になって、大きな合唱で締めさせていただきました。

共催としてお骨折りいただいた更級人風月の会の皆様はじめ、コンサートにお越しいただいた皆様、ありがとうございました。これからも、ずうっと、ふるさとを唄っていききたいと思います。

(さらしな棚田バンド・中村洋一＝芝原区)

佐良志奈神社で第2回アンズ花まつり



「恋の里さらしなアンズの花まつり」が4月6日、佐良志奈神社でありました。さらしなが大好きな人たちの集まり「さらしな会議」の主催で、こ

として2回目です。

佐良志奈神社は当地が「さらしな」と名乗れる根拠ともなるお宮で、境内東の県道を渡ると、千曲川河川敷の広大なアンズ畑。境内では、昨年の収穫のアンズの加工品を中心に、農家や商店がオリジナルの産物や商品を彩り豊かに陳列しました。今回はアンズジャ

ムを使ったおいしいお菓子の提案コーナー、挽き立てのコーヒーと洋菓子を提供するミニカフェもできました。

イベントも盛りだくさん。

昼前に、戸倉上山田温泉の旅館や農園などの女性有志でつくる「湯あがり美女連」が登場。踊りに合わせたかのように、雪が降り始め(写真)、来場者からは「さらしなの純白イメージにふさわしい粋な計らい」という声も。

昼過ぎは「矢代一重山太鼓」のみなさんの公演がありました。拝殿の中と前で、子どもから女性、男性まで多彩なばちさばきと音色、それに舞も披露してくださいました。

最後は、さらしな棚田バンドのミニコンサート。プロの音楽家とのコラボレーションで完成した「棚田姫」を披露しました。「信州さらしな月の里」で始まる歌は澄んだ音色の言葉と優しいメロディーが心に溶けこんでいくような心地よさがありました。

神社社務所での懇親会後は、本殿に上がり、さらしなの神様におまつりの無事開催のお礼をしました。今年のアンズの実の豊作も願い、アンズの加工産品を奉納しました。

(芝原区・大谷善邦)

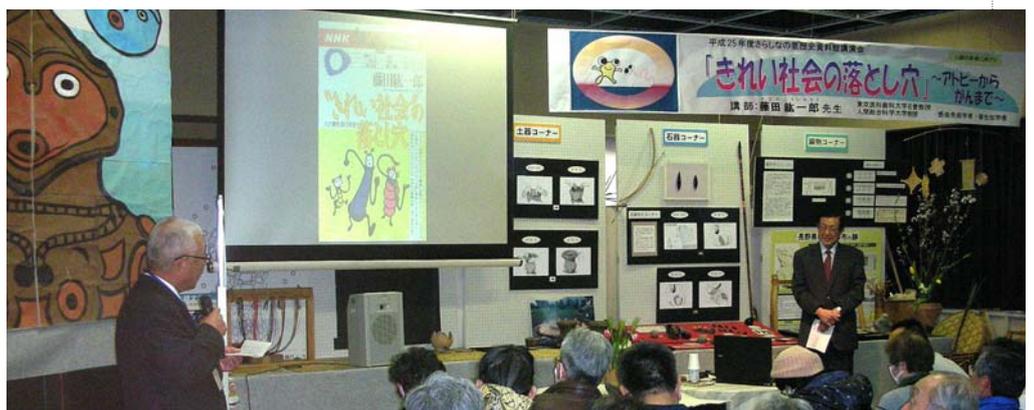
感染免疫学第一人者、藤田紘一郎先生が講演

さらしなの里歴史資料館で3月22日に開かれた寄生虫学・感染免疫学の第一人者、藤田紘一郎先生による「きれいな社会の落とし穴」を聴講しました。

人を惹き込ませる話し方、さまざまな面白いエピソードなど、藤田先生の講演は、一瞬も飽きることなく聞き続けることができました。ただ面白いだけでなく、目から鱗の情報が出現したり、長生きの秘訣が聞けたり、あれほど面白い講演が聞けたのは初めての体験でした。

私たちの体が縄文人と同じであるならば、縄文時代と全く違う現社会生活が体に何らかの影響を与えることは至極自然なことだと思えました。現代はさまざまなことに敏感で、潔癖であり、また、それが当たり前になっていっていると思います。

同じ時間軸の中で、藤田先生の行かれたカリマンタン島の人々をはじめ、地球上の違う地域では、私たちよりもより縄文人に近い暮らしをしている人たちがいる一方、私たち日本人は、生活のなかで汚いと思われるものを全て排除しようとしているということを知りまし



た。汚いと思われるものでも上手に付き合っていけば私たち人間にはプラスになるのだということが、お話の中で私が最も衝撃を受けたことでした。とても楽しい時間をありがとうございました。

(伊藤あす佳・横浜市在住)

学習体験の言葉がカルタに



大谷善邦さんの「古今さらしな集」を読んで、平成5（1993）年、4年生だった更級小学校のみなさんが創った「更級の歴史カルタ」を知りました。大正橋、更級のため池、明治新道、坂田寅治郎さんについて総合的な学習の時間で学んだことをもとに創作したものです。戸倉史談会の「とぐら」第19号にも紹介されています。

更級にため池十二もあるんだよ

のぼつてのぼつてあつたぞあつたぞため池が
どの読み札も実際に見て調べた子どもたちの
体験の言葉です。

須坂には今も生きてる寅治郎の教え

須坂地区の水田を見て寅治郎の教えを今も生



獅子が岩みんなの交通守るんだ

現在の佐良志奈神社向かいの千曲川沿いにある
獅子が鼻。注意してみなければそこにあること
さえわかりません。明治10年、当時の人々の苦

学びの種を芽吹かせたい

きていると思
える子は、少
なくとも「さ
らしな」に愛
着を持てる子
であろうと思
います。

労をなんとかしよう和中村林左衛門さんを中心
に寄付を集め、困難を乗り越えて明治新道がつ
くられました。今に至るその明治新道について
学ぶことは更級の人の生き方に学ぶことです。
数あるふるさと「さらしな」の学びの種を風
化させずに、子どもたちの学びとして芽吹かせ
ることは学校教育の一つの使命であると思つて
います。

縄文まつりもまた、長い歴史の中に生まれて
きた学びの種だと思います。未来に生きる子ど
もたちの豊かな学びにつながるものにしていけ
ればありがたいと思います。

（更級小学校校長・山崎一男）

あ 危ない危ない万治峠多くの人がなくなつた
い いい苗が元気で育つ陸苗代
う 馬も渡るにやお金がかつた二郡橋
え 偉いぞすこいぞ林左工門明治新道作つたよ
お 大雨で流され大麥羽尾の水田
か 冠着トンネル作るために作つた明治新道
き きょうからは馬で田んぼを耕そう
く 工夫して馬よけ三力所明治新道
け 研究会坂田寅治郎と二宮金治郎の勉強だ
こ 高架橋足の下にはごうず池
さ 更級にため池十二もあるんだよ
し ししが岩みんなの交通守るんだ
す 須坂には今も生きてる寅治郎の教え
せ 設計はドイツ人がしたんだ大正橋
そ それはすばらしい坂田式農業経営法
た 大洪水二郡橋が流された
ち 忠左工門ついに原池かんせいだ
つ 塚田小右工門明治新道作ろうと考えた
て つの橋大洪水に負けないぞ
と とく農家坂田寅治郎更級の偉人
な 中村林左工門きふを集めてあるいたぞ
ぬ 荷車は乗せられないからかついでこ
ぬ れた大正橋滑つてころんで
橋からおつこちる人も多かつた

ね ねずみさし神ノ木となり約百年
の のぼつてのぼつてあつたぞあつたぞため池が
は 花柄池今でも活躍しているよ
ひ ひもろ木に安全ねがつた林左工門
ふ ふなちゃんを払つて渡つた千曲川
へ 弁天様の湧き水は今でも使われているよ
ほ ほの暗き木々がかぶさる仙ヶ原池
ま 万治峠万治元年にひらかれた
み 皆でお金出し合つて明治新道買おうじやないか
む 村の人橋を作つて向こうに行きたい
め 明治新道つるはしで岩をくだいて作つた
も 森中左工門小さい時は捨五郎
や 山の中きれいなため池六つあり
ゆ ゆいごんもつて寄付集めをした林左工門
よ よ中でもゆだんできない見はり番
ら らんぼうに橋をわたるとこわれるよ
り 林左工門父の言葉をわすれない
る り色のきれいなため池山の神
れ 連続で橋を壊され大洪水
ろ 六十九才で天国に行った農業研究家
わ わたし舟十人乗るんだ集まれよ
を 神ノ木を知らない人は笑うんだ
ん せんじんの残した宝わすれません

博 美津保
美 美絵
平 美絵
論 拓
真 真
章 章
修 修
文 文
文 文
諒 諒
小 小美
大 大
西 西
豊 豊
論 論
伸 伸
沙 沙
亜 亜
智 智
さ 勇
勇 勇

章 堀・純
堀 堀
由 由
智 智
住 住
純 純
堀 堀
博 博
平 平
布 布
正 正
利 利
鳥 鳥
伸 伸
進 進
英 英
学 学
由 由
豊 豊
芳 芳
英 英
慈 慈
亜 亜

豊かな水と農作物もたらす久露滝

おらほの冠着

29

冠着山の北斜面、冠着神社への久露滝参道（千曲市御麓区）の鳥居から登ると、ほどなく滝の音が聞こえてくるのが「久露滝」である。

戸隠修験場でもあったと言われ、滝の正面に戸隠の連山を望む絶妙な場所にある。以前には、春の農作業前に、十分な水利と五穀豊穣を願い、願掛けに登ったと言われ、子どものころについていった記憶も残る地元信仰の滝でもあり



エイレイソウ



アズマイチゲ



久露滝から望む戸隠



ます。最近はこの登山道を利用する登山者の数は少なく、毎年7月冠着神社の祭りに合わせ、区の役員により注連縄の張り替えが行われています。

久露滝口の山の神池から久露滝周辺は子どもたちの遊び場で、山菜採りや薪取りの場として祖父に連れられ、友達と時間を過ごしたところでもある。

一般家庭には冷蔵庫などなかった時代、キブシの黄色い花が咲き始めると、下校

幼少時、天然氷探し、水浴び…

後、友人と天然氷を探しに出かけた。ガラ場の岩の下や隙間を探し、夏は滝の水を浴びるだけのために登ったこともあり、水の飛沫が冷たく、セミの声を消す水音と、復輝石安山岩の漆黒の岩の高さに圧倒され、滝下に並んだ祠（今は1基のみ）に飾られた、金属の飾りの数々：何か別世界を感じ手を合わせたものである。

滝までの道は、去年の台風の被害で寸断状態になっているが、滝周辺は自然環境も良く、運が良く

ればサンショウウオに合えるかもしれない場所であり、植物の分布種類も多いところである。春先はスマイレ、オオネコヤナギから始まり、エンレイソウは小ぶりながら毎年花を咲かせている。

アジサイの時期は特にお勧めしたい場所である。

（羽尾4区・北村主計）

〔編集後記〕「更級の歴史カルタ」の読み札を読むと、山崎校長先生がお書きのように、確かに自分で調べた結果の言葉。同じ歴史を勉強しても、子どもの心の動かし方はさまざま。絵札もカラフル、ユニークで、読み札とセットで飾っておきたくなります▽北村さんが幼少時に遊んだ久露滝は、「深（神）山幽谷」という言葉がびつたりの空間。天然氷は冷却用とのことですが、子どもだからきつとめたでしょう。その味は？ カルタにしたら：▽さらしな柵田バンドでは今春、プロの音楽家と一緒に「柵田姫」というタイトルの曲を作り、CD発売。「信州さらしな月の里」に住むお姫さまの物語を、優しいメロディーと歌声で奏でていきます。清々しさと躍動感の「さらしな」のイメージにぴったり。同バンド・森政教さんほか、長楽寺、木の花屋で購入できます（1部500円）。